

ThreeBond



ALL JAPAN
SUPER FORMULA
Championship 2026

RACE REPORT



Round.1-2

MOBILITY RESORT
MOTEGI



YOKOHAMA



beyond the invisible

IKS Material

INTERIOR GUARD

NAGASE

KAJIMA



BLOCKHEAD MOTORS

株式会社緑化計画

ROUTE KxS



SEV

NGK SPARK PLUGS

pum's



KRS KTEL RACE SERVICE

wpc

インバイヤ自動車

SS StarFlare

ENKEI

LEADMAX

ÖHLINS

D.B.P.

Swift

SOLAN



体制刷新！光射すか、開幕大会

今季の全日本スーパーフォーミュラ選手権開幕大会が、4月3日(金)～5日(日)にかけて、栃木県のモビリティリゾートもてぎにて開催された。今回は金曜日にフリー走行、土曜日に第1戦公式予選および決勝、日曜日に第2戦公式予選および決勝が行われ、1大会2レースが開催される形式で行われた。

昨年、最終戦鈴鹿大会で10位に入賞し、選手権ポイントを獲得したThreeBond Racingだったが、更なる高みを目指し、今季はドライバーに小出峻選手を起用。小出選手は2024年の全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権シリーズチャンピオンで、昨年他チームから全日本スーパーフォーミュラ選手権にデビューした、新進気鋭の選手である。

また、トラックエンジニアとして2011年、2012年と2年連続でSUPER GT GT500クラスチャンピオンを獲得した名将である大駒俊臣エンジニアを新たに迎え、一部チームメンバーについても変更・増員するなど体制を刷新した。

マシンのカラーリングも今季から青・白・赤のトリコロールを主体に、空気の流れを意識した疾走感のあるデザインに大きく変更。

変化点の多い中で臨む開幕大会となった。



ThreeBond

金曜日 フリー走行

土日の予選・決勝に先立ち、3日(金)にフリー走行セッションが2回設けられ、各車予選に向けたセッティングを進めた。

モビリティリゾートもてぎではシーズンオフに路面の再舗装が行われ、昨年と異なるコンディションに戸惑うチームが多い中、直近で行われた別カテゴリーのレースで再舗装後のコース走行経験を有する小出選手は順調な走り出しを見せた。予定されていたテストメニューをこなしながら、午前のセッションでは27周を走って6番手、午後のセッションでは35周を走って12番手につけ、翌日の公式予選に備えた。



Round.1 公式予選

春うららかな気候だった金曜から一転、公式予選が行われる4日(土)は朝から曇天となり、時に小雨も落ちるコンディションとなった。午前9時30分から始まった公式予選Q1A組に出走した小出選手は、難しいコンディションの中でもドライタイヤを装着して出走し、トップから0秒187差、12台中3番手のタイムとなる1分31秒020を記録。予選Q1A組、B組のそれぞれ6番手までの選手が進む予選Q2へと進出した。ThreeBond Racingとして予選Q1を突破したのは、鈴鹿サーキットで開催された2023年シリーズ第9戦以来のことだった。

平滑になった舗装の影響か、ニュータイヤのウォームアップが思い通りに進まない難しい状況の中、予選Q2でも小出選手の快走は続き、Q2出走12台中7番手のタイムを記録。走行終了後に上位の1台が失格となったことからポジションを1つ上げ、最終的に6位で予選を終えた。

Pos	No	氏名/予選 Q2 タイム
1	1	岩佐 歩夢 / 1' 29.847
2	6	太田 格之進 / 1' 29.946
3	64	佐藤 蓮 / 1' 30.067
6	12	小出 峻 / 1' 30.188





Round.1 決勝

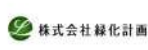
モビリティリゾートもてぎの天候は午後から悪化し、強い雨となった。新しい路面が雨を吸い込まない傾向もあり、決勝レースは午後2時45分にセーフティーカー(SC)先導の下でのスタートとなった。しかし、路面コンディションは過酷で、3周をSC先導の隊列で走った所で赤旗が提示され、レースは一時中断された。

雨足が弱まるのを待って午後3時55分にレースはSC先導で再開され、15周走行したところでSC先導が解除、16周目から本来のレースが始まった。この時点でレース終了までの制限時間は残り16分となっており、チェッカーまで僅か数周のスプリントレースとなった。

6番手の小出選手は周囲の車両が巻き上げる水しぶきで視界が失われる中、前を走る野村勇斗選手がペースダウンした隙を突いてオーバーテイクし、順位を1つ上げることに成功した。直後に中団でのアクシデントが発生し、再度SC先導での隊列走行となった。

レースは20周目に再開。制限時間が残り6分と迫る中、小出選手は後方からサツシャ・フェネストラズ選手のアタックを受け、5コーナーでは先行を許して一時6番手へポジションを下げたがサツシャ選手は勢い余ってS字コーナーでオーバーラン。小出選手は5番手を取り戻した。その後、コースオフした車両が発生し、再度SC先導での隊列走行となった。ここでレースの制限時間に達したことから、SC先導のままチェッカーフラッグが振られ、23周でレースは終了となった。

小出選手は5位でフィニッシュとなり、ドライバー個人としても過去最高位、ThreeBond Racingとしてスーパーフォーミュラへ参戦以降、チームとしても最高位でレースを終えた。



ThreeBond

Round.2 公式予選

翌5日(日)、モビリティリゾートもてぎの天候は曇天ながらも回復したが、朝の段階では夜に降った雨の影響で路面は湿った状態となり、難しいコンディションとなった。

午前10時10分からの公式予選Q1A組に出走する小出選手とチームは、ドライタイヤを装着しコースインした。路面がまだ完全には乾いていない状況の中で、小出選手は温まりにくいタイヤを上手くウォームアップしてタイムアタックを行い、6周を走って1分31秒836を記録した。この結果、出走した12台中のトップから0秒495差の6番手となり第1戦に続き2戦連続でのQ2進出を果たした。

Q1A組 B組それぞれ上位6台が出走する公式予選Q2では、小出選手は1分30秒876を記録。12台中6番手でセッションを終えた。これにより第1戦と同じ6番手のスターティンググリッドを手に入れることとなった。



Pos	No	氏名/予選 Q2 タイム
1	6	太田 格之進 / 1' 30.369
2	39	大湯 都史樹 / 1' 30.623
3	1	岩佐 歩夢 / 1' 30.637
6	12	小出 峻 / 1' 30.876





ThreeBond

Round.2 決勝

5日(日)午後2時45分、第2戦の決勝レースがスタートした。小出選手は新チームとなり初めての静止状態からのスタートである。決勝スタート前に小出選手とチームは、スタート合図の瞬間に理想的なクラッチミートができるようマシンの調整を進めたがなかなか納得ができる状態にはまとまらず、僅かに不安を抱えたままスタートを迎えることになった。

しかしながら、スタート合図の瞬間、小出選手は上手くクラッチを繋ぎ、一気に加速。前を走る阪口晴南選手をパスし、1コーナー手前で野尻智紀選手もパスして一時4番手に進出した。しかし、その後の位置取りが不利になり、2コーナー外側から阪口選手に抜き返され、3コーナーで山下健太選手のオーバーテイクを許し、6番手へ後退してオープニングラップを終えた。

レース2周目、コース上で停止した車両が発生したためSCが介入。隊列走行の上で、7周目からレースが再開となった。小出選手は6番手のポジションを守って周回を重ねた。

このレースではレース中1回以上4輪全てのタイヤ交換が義務付けられており、各チームで戦略が分かれる中、ThreeBond Racingはタイヤ交換が可能になる10周目に小出選手をピットに呼び寄せ、早めにタイヤ交換を済ませる戦略を選んだ。周囲に車両がない状態でニュータイヤを装着し、ペースを上げる作戦である。

小出選手はタイヤ交換後18番手でレースに復帰した。しかし、タイヤ交換を遅らせて走り続けた他車のペースが思いのほか下がらず、レース終盤には小出選手が集団に追いついてペースを上げられなくなったため、目論みに反して、順位を下げることになってしまった。そのまま大きなトラブルなく走行を続け、レースは37周で終了。小出選手は24台中9位フィニッシュとなった。

小出選手とチームは選手権ポイントを2戦連続で獲得に成功。第2戦終了時点で小出選手はランキング9番手。チームは7番手につけている。



ThreeBond

ドライバー:小出峻 コメント

移籍が決まった時は感謝の気持ちでいっぱいでした。シートを用意してくれたスリーボンドさんには良い結果で恩返ししたいと考えていましたが、もちろん昨年まで苦戦していたチームであることは知っていたので、そう簡単ではなく、様々な課題があるだろうと考えていました。

大駅エンジニアと組んで、マシンを走らせ始めた際には昨年までの車両のセッティングにあった特徴のある部分を一旦全部フラットにして、スタンダードな状態にするという方向性をまとめて走りだしました。結果的にはその方向性が良かったと考えています。金曜日にフリー走行を走り始めた時点で手応えがあり、『これは行けるんじゃないか』と感じました。

第1戦の雨の決勝レースは水しぶきで何も見えず、雨量は溺れるかと思うほどで、怖さを感じました。しかし、5位でフィニッシュでき、チームの過去最高順位も獲得できたことで、自分にとっても自信がついたレースでした。チームメンバーも皆喜んでくれ、個々の表情も変わって、チーム内の雰囲気もすごく良くなったように感じ、ドライバーとしてとても嬉しかったです。

第2戦は早めにタイヤ交換を行い、前方が空いた状態で周回を重ねる作戦を選びましたが、結果的にはタイヤ交換を遅らせた選手が上位となりました。これは結果論で、仕方がないと考えています。その様な中でも、2戦連続で選手権ポイントを獲得し、大会を終えることができたのは本当に良かったと思います。目標は更に高い所に設定したいのですが、まずは地に足を付けて、最低でもこの位置をキープして、チャンスがある所ではトップに食い込みたいと思います。



監督:塚越広大 コメント

今季はチームの体制を一部刷新し、サーキットの路面も新しくなるなど、変化が多い中で迎えた開幕戦となりましたが、しっかりと結果が残るように、オフシーズンからチームメンバー全員が個々で努力してくれました。その甲斐もあって、金曜日のフリー走行では感触良く走り出すことができ、テストメニューも予定通りこなすことができました。第1戦は大雨でしたが、ドライバーはマシンをしっかりと最後まで走らせてくれて、チームとしては参戦以来最高順位を獲得することができました。また、第2戦もしっかりとレースを戦って選手権ポイントが獲得できました。

チームとしては、ここがスタートだと思っており、今後さらに積み上げるべきものを積み上げて、更に上を目指します。ただし、今回はコース状況など変化点が多く、このまま次戦オートポリス、鈴鹿へと良い流れが続く確約はありません。今回の結果をしっかりと分析して次戦へ繋げていきたいです。

チーム発足以来の最高位は、非常に嬉しく、獲得出来たことに安心もしましたが、これは到達点ではなく、最終的にはチャンピオン獲得を目指します。昨年までの2シーズンはそこまでの方向性が見えず、出口のないレースが続いていましたが、今回ある程度結果が出せたことで、チームメンバーも進むべき方向性が見えてきたと思います。まだまだ荒削りの部分も多いため、チーム作りをしっかりとしていきます。



トラックエンジニア:大駅俊臣 コメント

エンジニアとしてはマシンを受け継いだ形ですが、多少なりとも昨年自分が担当していたマシンとは個体差があるので、その差はどこにあるのか把握するところから始めました。今回も特別なことは何もしていませんが、(他チームを見ても)同じマシンを使いながらも、上手くいっているチームと上手くいっていないチームがあります。上手くいかないことが続くと良くないだけの話で、良い時も悪い時もあるのだから、良い結果の方をしっかりと経験としてキャッチできるように進めたいと思います。もちろん、これまでも苦戦してきたのは知っているのですが、今回たまたま良かっただけで、また崖に落ちることがあるかもしれません。問題は、そこからまた良い状態へ戻ってこられるかどうかだと思っています。

第2戦のタイヤ交換のタイミングについては悩みましたが、タイヤ消耗が今回本当に少ないと感じたので、先に交換してしまい、前が空いた状態で走るということを考えてのですが、結果的に集団の中に入ってしまいました。ただ、今週末はエンジニアとしてまずまずの仕事ができたかなと感じています。この結果を持ち帰り、次戦はどのようなレースができるのかを見極めます。



ThreeBond

Round.1 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	2:04' 03.577
2	1	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN AUTOBACS	2:04' 04.246
3	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	2:04' 04.593
4	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	2:04' 05.242
5	12	小出 峻	ThreeBond Racing	2:04' 07.245
6	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	2:04' 08.341
7	50	野村 勇斗	San-Ei Gen with B-Max	2:04' 08.675
8	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN AUTOBACS	2:04' 09.945
9	36	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	2:04' 10.495
10	97	ロマン・スタネック	ナビクル Buzz MK RACING	2:04' 11.074
11	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	2:04' 13.155
12	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	2:04' 13.560
13	8	山下 健太	KCMG	2:04' 15.301
14	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	2:04' 17.117
15	53	チャーリー・ブルツ	TEAM GOH	2:04' 17.388
16	22	松下 信治	DELIGHTWORKS RACING	2:04' 20.106
17	9	野中 誠太	KCMG	2:04' 24.022
18	28	小林 利侑斗	KDDI TGMGP TGR-DC	2:04' 24.945
19	14	福住 仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE	2:04' 26.059
20	3	ルーク・ブラウニング	REALIZE KONDO RACING	2:04' 46.284
-	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	-
-	19	ザック・オサリバン	TEAM IMPUL	-
-	7	小林 可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC	-
-	4	笹原 右京	REALIZE KONDO RACING	-





Round.2 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:00' 49.123
2	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:00' 50.081
3	14	福住 仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE	1:01' 02.333
4	3	ルーク・ブラウニング	REALIZE KONDO RACING	1:01' 09.468
5	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:01' 13.473
6	19	ザック・オサリバン	TEAM IMPUL	1:01' 13.893
7	8	山下 健太	KCMG	1:01' 14.676
8	1	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN AUTOBACS	1:01' 14.892
9	12	小出 峻	ThreeBond Racing	1:01' 15.228
10	22	松下 信治	DELIGHTWORKS RACING	1:01' 16.088
11	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	1:01' 16.509
12	7	小林 可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC	1:01' 17.035
13	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:01' 17.859
14	36	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	1:01' 17.995
15	50	野村 勇斗	San-Ei Gen with B-Max	1:01' 20.496
16	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	1:01' 21.883
17	97	ロマン・スタネック	ナビクル Buzz MK RACING	1:01' 22.531
18	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN AUTOBACS	1:01' 31.190
19	9	野中 誠太	KCMG	1:01' 40.850
20	53	チャーリー・ブルツ	TEAM GOH	1:01' 42.270
21	4	笹原 右京	REALIZE KONDO RACING	1:01' 48.756
22	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	1:02' 05.620
-	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	-
-	28	小林 利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC	-



ThreeBond

Drivers & Team Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			もてぎ	もてぎ	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	太田 格之進	35	2+10	3+20										
2	阪口 晴南	15	0	15										
3	岩佐 歩夢	15	3+7.5	1+3										
4	福住 仁嶺	11	0	11										
5	ルーク・ブラウニング	8	0	8										
6	大湯 都史樹	8	0	2+6										
7	佐藤 蓮	7	1+5.5	0										
8	ザック・オサリバン	5	0	5										
9	小出 峻	5	3	2										
10	山下 健太	4	0	4										
11	イゴール・オオムラ・フラガ	4	4	0										
12	サッシャ・フェネストラズ	2.5	2.5	0										
13	野村 勇斗	2	2	0										
14	野尻 智紀	1.5	1.5	0										
15	松下 信治	1	0	1										
16	坪井 翔	1	1	0										
17	ロマン・スタネック	0.5	0.5	0										

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			もてぎ	もてぎ	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	30	0+10	0+20										
2	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	21	0+0	15+6										
3	TEAM MUGEN AUTOBACS	12	7.5+1.5	3+0										
4	NTT docomo Business ROOKIE	11	0	11										
5	PONOS NAKAJIMA RACING	9.5	5.5+4	0+0										
6	REALIZE KONDO RACING	8	0+0	8+0										
7	ThreeBond Racing	5	3	2										
8	TEAM IMPUL	5	0	5										
9	KCMG	4	0+0	4+0										
10	VANTELIN TEAM TOM'S	3.5	1+2.5	0+0										
11	San-Ei Gen with B-Max	2	2	0										
12	DELIGHTWORKS RACING	1	0	1										
13	ナビクル Buzz MK RACING	0.5	0.5	0										
14	KDDI TGMGP TGR-DC	0	0	0										
15	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	0	0	0										
16	TEAM GOH	0	0	0										

